

# SSC 埼玉県障害者社会参加 推進 センターだより

令和5年12月30日 139号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

メールアドレス

ssk080321@bz03.plala.or.jp

HPアドレス

http://saitama-shokyo.org/info/

発行

NPO法人埼玉障害者センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

頒価

一部100円(会費に含まれます)

発行日

10日・20日・30日

国際障害者年の前年（1980年）に第1回埼玉障害者まつりを始めてから、今年で44回目を迎えました。「一人ぼっちの障害者をなくそう」「障害者の文化・スポーツ・レクリエーシ



10月8日、埼玉県障害者交流センターを会場に2200人が参加しました。



「ドン・ドンつながれ太鼓サークル」も「樹」も、特別支援学校の生徒、保護者、先生たちで練習を重ねている仲間たち。今年、もう一つ、作業所の仲間

「ドン・ドンつながれ太鼓サークル」も「樹」も、特別支援学校の生徒、保護者、先生たちで練習を重ねている仲間たち。今年、もう一つ、作業所の仲間

たちが参加、特別支援学校のOBの先生が、非常勤で作業所に関わり、太鼓と一緒に練習をしているみぬま福祉会「みぬまにじ太鼓」。東北「みちのくプロレス」、普段から高齢者施設などに、リングを持っていき、お年寄りも楽しい時間を共にすごす取り組みをしているのとことです。メンバーは男性ですが、今回も女子のレスラーに声をかけ参加となりました。「ともしび」は、新宿の歌声喫茶でおなじみです。小さなグループをつくり、歌声活動をしています。まるバンドは、ともに福祉会の家族が中心となっています。県東部の市役所の職員の「ふわふわ楽団」。「春奈あき&アラビナ」のベリーダンスも障害者まつりを大切な発表の場としています。それぞれ繰り出す演技に何重もの輪になってみる人を楽しませました。



室内では、展示スペースをステージに、車いすダンスこと「パラダンス」、参加者も一緒に踊る体験の場面も。大道芸は今回、一人だけ、コロナ後初めてで久々に風船マジックを見せてもらいました。



絵画展では、点描画の石井さん、最近漫画にも挑戦しているとのこと。卒業後の仲間が作品作りなど活動を交流センターで行っている春里の森の作品も展示されました。

子供広場は、かわせみの袋に絵を描いて持ち帰る取り組みを行いました。輪投げ、射的に子どもたちの列が出来ました。

今年は、「さいたまっち」だけでさみしそうでしたが、会場の人気者になっていました。体育館では、埼玉県障害者協議会のスポレク担当がパラスポーツの種目を参加者とともに楽しみ、駆け回る元気な子供たちもいました。

恒例の癒しのマッサージを受けるために来場する方もいます。年金相談も、支給のためらっている人には気軽に相談が出来る良い機会になっています。

模擬店は、焼きそば、やきとり、おにぎり、炊き込みご飯、チヂミ、唐揚げ、とん汁、クレープ、だんご、ジュース、お酒と色々なメニューが並びました。久しぶりの生協は飲み物を提供してくれました。室内では手芸品やバザー品が並び、掘り出し物を探すお客さん。割引のPRにと参加した、さいたま新都心駅の方、事前に改札口にまつりのテロップが映し出されたようです。



「埼玉の地域から平和・共生社会をめざす」をテーマにした今年の中心企画は、国際ジャーナリストの伊藤千尋氏による講演会『憲法9条は未来を照らす』。埼玉での障害者9条の会のパンフレットに書かれている

「障害者は平和でなければ生きられないのです」に触れながら、「とりわけ障害者は、戦争になつてしまったら軽んじられ、戦争のために役に立つ人が重視される。そういう世の中が変わっていきます。」と伊藤さんは話し始め、「日本国憲法は日本の誇り、世界の宝」を力説し、社会を変えるには、「9条を体現した中村哲医師のように、私たち一人ひとりの行動だ」として講演を終えました。

まつりを支える要員ボランティア、前日は、作業所の仲間も駆けつけてくれ、重いテント運びも何とか出来ました。駐車場は、特別支援学校の先生方がいつも担ってくれています。送迎は、これも毎年、ボランティアグループ旧アウトバーンがピストン運転。

「コロナを越える」を、準備の心構えにしましたが、模擬店の申し込み、チラシのはけ具合、協賛金の集まりもコロナ前にはいかず、準備をする側の高齢化もありました。フィナーレで、「もうソロソロ」という言葉を準備していましたが、「初めて参加した」「楽しかった」「また来たい」の声に押され、「来年も会いましょう」と言ってしまうしました。

まつりへの期待の中で、準備する側の高齢化。これからどうするかを深く考えさせられるまつりにもなりました。みなさんとともに考えましょう。



# 茶道体験会報告

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会事務局 郷古 珠美



令和5年度埼玉県障害者社会参加推進事業のひとつとして、令和5年10月27日（金）に埼玉県障害者交流センターを会場として茶道体験会を実施しました。

講師は埼玉県障害者交流センターで障害者向けに活動している、小倉山サークルの皆さんです。正座をするのが難しい方でも無理なく参加できる、椅子と机を使ってお茶を点てる立礼式で活動されています。

今回の体験会も立礼で行い、障害のある方や茶道経験のない方にもお茶の楽しさを気軽に体験してもらおう会として企画しました。

当日は指導役の小倉山サークルの4名の方の他、お手伝い要員7名が裏方として参加し、私

も裏方要員の一人でした。会場や茶器等の準備の他、お抹茶とお菓子を参加者まで運ぶ役を担いました。



→小倉山サークル代表 万谷氏

私を含めお手伝い要員の茶道未経験者は全員、お抹茶を出す際はお茶碗を時計回しに2回まわす、ゆっくり丁寧な動作を心がける、渡した後は一礼する、など簡単な所作を何度も確認、練習してから本番に挑みました。



会場には金屏風と赤い和傘、季節の花が飾られ、BGMに雅な琴の音声が流れる中、まずは小倉山サークル代表の万谷氏がお抹茶の飲み方やお菓子の食べ方の説明をしてから、黒塗りの和風テーブル上でお点前を披露します。お点前が終わった後は参加者の机にお抹茶とお菓子が配られ、じっくりお手本のお抹茶を味わって頂きました。

そのあとは小倉山サークルの皆さんの指導を受けながら各自で抹茶を点てる体験です。

茶筌ちやせんを使って抹茶を点てるのが初めての方、過去に習った経験があっても久しぶりに体験する方など、様々な参加者が茶筌の扱いに苦戦しつつ抹茶を点てる体験をしました。

体験後、今回の参加者の方からは口々に「久しぶりのお抹茶楽しかった」「お抹茶を点てる体験が楽しかった」「とてもおいしいお抹茶でした」などの嬉しい感想をいただきました。

また、多くの方が「同じお茶なのにお手本と比べて自分ですてたお茶は美味しくなかった。全然味が違って驚いた」とおっしゃっていたのが印象的でした。車椅子の方も無理なく参加できる立礼式の茶道は、気軽に参加できる素敵な文化体験だと感じました。今後もっと広く周知されて、楽しめる方が増えるように、生活訓練でも継続的に実施出来ればと思います。



立礼式での参加者の様子

## 第15回みんなねっと全国大会in埼玉

## 家族任せにしない社会に

埼玉県精神障害者家族会連合会 会長

いちのせ まさあき  
一之瀬 昌明

大会を振り返って・・・

埼玉県大宮を会場に開かれた第15回みんなねっと全国大会は、全体で686名の参加者を迎え、成功裏に終了しました。

2022年2月に第1回の実行委員会を開いて、大会事務局を設立させ、役割分担を決め、大会テーマや分科会をいくつ設けるかなど検討してきました。1日目に基調講演・特別講演を設定することや、費用をどう賄うか、協賛寄付金や後援などどう依頼するかなど、やるべきことはたくさんありました。また、会場参加だけでなく、Zoom（ズーム）も併用して開催することも決定しました。

大会テーマは「家族まかせに

しない社会に」と決め、そのためには法律に制定することや国の政策に盛り込むこと、また各地方自治体の条例などに反映させていくことが求められます。

そのような展望を持ちつつ、目の前のケアラー支援をどう進めていくかがテーマとなりました。また昨年国連障害者権利委員会の対日審査で指摘された、家族に重たい負担をかけ続けている日本の精神科医療の現状からどう脱却していくのかを、参加者の皆さんと共に考えることしました。

7月24日には実行委員会として、大宮の会場を視察し、8月29日には実行委員会メンバー揃って、会場

場に出向きホールや集会室、楽屋、ホワイエなどを実地検分しました。大会前日の10月13日には軽自動車2台で交流センターから大会誌をはじめ必要な物資を運び込み、受付や舞台正面の横断幕（大会表示）を掲げるなどの準備に、12名の実行委員会メンバーが参加して当りました。

当日の朝は集合時刻より早く集まって顔合わせをし、それぞれの仕事につきました。受付を済ませた参加者が小ホールに続々と詰め掛け受付前に並びました。その頃大宮の駅では、会場案内のメンバーが案内板を掲げながら、駅頭に立ちました。10時30分には煙草枝さんのトイピアノの演奏と心に沁みるトークがありました。「父が遺してくれたこととは」というテーマで、家族会が、お父さんの大きな生き甲斐であったことを語ってくださいました。トイピアノが大小合わせて4台、グランドピアノと調和して会場に素敵なメロディが流れました。

11時30分きっかりに開会の言葉があり、岡田理事長の開会の挨拶、大会実行委員長の開会の言葉、来賓の方々の紹介と続き、行政報告を終えて昼食休憩となりました。

午後の基調講演では「ケアラー支援を進める社会に」と題して、日本ケアラー連盟代表理事の堀越栄子氏が法制化・条例化・地域づくりの必要性や可能性をたくさん話されました。ケアラー支援を目指して全国で初めて「埼玉県ケアラー支援条例」が2020年3月に制定され、この3月末までに18自治体で条例が制定されたことも紹介されました。

岡田理事長のみんなねっとと活動報告の後、地元さいたま市のやどかりの里理事長・増田一世氏の「障害者権利条約と家族支援」と題してのお話がありました。家族に重たい負担をかけ続けている日本の精神保健医療の現実から、家族依存の脱去を訴えました。国連の総括所見（勧告）には保護者の



もとで生活している人たちは、自身の暮らしの場や誰と暮らすのかを、選択できていないと指摘されていることが紹介されました。親からの独立が保障される社会制度の必要性を指摘されました。

**二日目は、4つの分科会が行われました。**

**第1分科会は、「ケアの脱家族化を考えるー本人と家族双方の自己実現を目指して」**をテーマに佛教大学の塩満卓氏がファシリテーターを務め、親の立場から山口ふみ子氏が、支援者の立場から三石麻友美氏が、きょうだいの立場から仲田海人氏が、そして配偶者・パートナーの立場から吉荒龍哉氏がそれぞれ、実践と意見を発表されました。

塩満氏の話の中で「介護者」の名を冠した法律や関係法令のある国が、11カ国もあることが紹介され、日本の遅れていることを実感しました。

**第2分科会は、「精神保健福祉手帳2級所持者まで福祉医療の対**

**象に」**とのテーマで討論が行われました。

埼玉の高波幸雄氏は、埼家連のこれまでの取り組みを、署名活動・県議会への要請などを示しながら発表されました。奈良の奥田和男氏は県の実態調査をもとに、当事者、支援者と一緒になって生活実態を訴えていく活動の大切さを話されました。茨城県の兼清紀郎氏は、関係する諸団体（精神保健福祉士会、障害者施設協会など）の協力もいただきながら、家族会が積極的に活動を展開していった経験を報告されました。

**第3分科会は、「自立の多様性」ということで「就労だけが自立ではないー自分の力で進むプロセスの大事なことを話し合いました。**

精神保健福祉士の織田洋一氏は、当事者の人生に寄り添って一緒に動くことを大事にされている経験を語ってくださいました。

視覚障害者福祉協会の田口茂氏は、「私の辿った道」とのテーマで、ご自身の視覚障害者としての



経験と活動を発表されました

自閉症協会の小村由美子氏は、「自立」を実現するには「人」の理解と社会制度の見直しが不可欠で、環境や、その対応方法があることを知ってほしいと訴えられました。

川越市の荒木美緒氏は「本人の苦労は取り上げない」を基本に少しずつ手放すことで本人のできることが増えてきたことに自信を持ち、生き生きと彼らしく過ごせる居場所を今探しているところで、息子さんと共に自身も成長していきたいと話されました。

雨になったこの日もたくさんの参加者が熱心に、各分科会会場のホールや集會室で発表者の話に耳を傾けました。

#### 第4分科会の「これからの家族

**会」**では「つながりを求める家族自体が減っているわけではないことに自信を持って、新しい時代の家族会のあり方を考えよう」と呼びかけています。

神戸市の家族会では、市主催に加え神家連主催の「新規発症患者こころの家族教室」を行い、年4回発行の「木の芽家族会通信」を発行しているそうです。こどもびあの坂本拓さんの活動は「安心した場の提供」を考えて運営し、久喜のスマイルサロンの林さんは、いつでも話を聴いてもらえる居場所が親が精神的に安定することで、当事者にも良い影響があったと振り返っています。

大会参加の皆様、運営に携わった皆様、誠にありがとうございました。そして、お疲れさまでした。大会が終了した後も、アンケートの集約なども含めて2日間の大会の総括をし、次の大会の開催に役立てたいと考えています。



コールフアミリーは、視覚障

害者と晴眼者が一緒に歌う混声

合唱団です。結成は1973年

そこで50周年記念コンサート

5月ですから、2023年5月

の準備も本格的に進められるよ

うになりました。

期日と会場が決まり、202

年には、満50歳の誕生日を迎える

4年10月27日、埼玉芸術劇場と

ことができました。

なりました。

を計画していましたが、新型コ

目標が定まり、練習にもいっ

ロナの影響で2020年からは、

そう熱が入ってきました。これ

月1回の練習も困

からは練習会場さえ取れば、

難になってしまし

月2回の練習をしたいと思っ

た。

います。

2022年頃か

さて今年度の合唱教室ですが、

らやっと月1回の

今まで同様4回シリーズで行う

練習ができるよう

予定です。



9月は障害者交流センターに  
て、10月は北浦和公民館にて行  
いました。団員のほか数名の参  
加者を交えて、奥隅先生による  
発声練習が行われました。  
複式呼吸による深呼吸は、肺  
胞の隅々まで新鮮な空気でリフ  
レッシュされ、免疫力も高まる  
そうです。また発声練習は、喉  
の筋肉を強化して、誤嚥防止に  
なるそうです。

練習曲としては、

「赤トンボ」

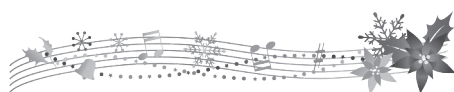
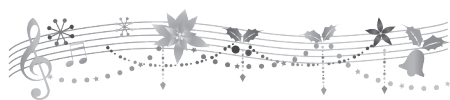
「月の砂漠」

「荒城の月」

「古城」

「里の秋」

「もみじ」



等を、斉唱で、曲によっては簡  
単な2部合唱で、楽しく歌いま  
した。





# 蕎麦打ち道場

一般社団法人 埼玉県障害難病団体協議会

事務局 東海林 孝文  
しょうじ たかふみ



令和5年10月9日(祝)に、  
鴻巣市宮地のそば処「大むら」にて、「埼玉県障害難病団体協議会(略称・障難協)」と、その加盟団体である「日本てんかん協会埼玉県支部」の共同開催で、「蕎麦打ち道場」を午後1時半から開催しました。

参加者は定員の12名で、ご夫婦での出席やご主人のみ、親子など多彩な顔触れとなりました。早めに会場に来て昼食を「大むら」で取って、その後に蕎麦打ち道場に参加する方がほとんどでした。参加者をAとBの2チームに分けて、私はAチームになり、トップバッターで少し緊張しました。



初めに、そば粉と少量の小麦粉、水を入れての「水回し」から始まりました。

今回は、そば粉10に対して小麦粉2を加える割合で進めました。水回しは、時間との勝負で



す。時間をかけすぎると、蕎麦と小麦粉が上手く混ぜられず、それぞれが固まってしまう。水回しをしてから「捏ね」の作業に入ります。講師の先生から腰を曲げるのではなく、脚を曲げた姿勢でするように指導がありました。

次に、捏ねた蕎麦を板状に広げる「延ばし」の工程です。

均等に広げないと捏ねた蕎麦に割れ目はいり、その部分は使えません。これがなかなか難しく、私の場合はどちらか一方に力が入って、どうしても割れができてしまいました。また、最初は円で延ばして、四つ出しをして正方形にし、さらに真つすぐに伸ばします。私がやると、どうしても楕円形のような形になってしまいます。



最後は、広げた蕎麦を専用の大きな包丁で切る工程です。

これが高かくなか均等の幅に切ることができません。直線に切れるように台を添えて切りますが、なかなか上手く切れませんでした。講師の先生曰く、最低3カ月毎日通えば、講師の先生のような切り方ができるようになる、と勧められました。

参加者みなさんで、捏ねて切った蕎麦を、その場で茹でてもらい食べた。蕎麦の香りや味が強く、形は悪いですが、とても美味しくいただきました。

## 令和5年度 みんなしあわせ・共生社会県民のつどい開催報告

NPO法人埼玉県障害者協議会事務局



### 令和5年度年度障害者週間記念事業「みんな幸せ・共生社会県民のつどい」が12月2日(土)、熊谷市の「熊谷文化創造館さくらめいと」にて開催されました。

この事業は、障害者に対する県民の理解を深め、共生の心を育む地域づくりを推進することを目的として毎年開催されています。

式典では令和5年度「心の輪を広げる体験作文」入賞者・「障害者週間記念ポスター」の入賞者への賞状授与の他、式典後には埼玉県ヘルプマーク普及大使、古川信行氏のミニ講演「ヘルプマークとは」や、落語家の柳家花緑氏の講演「発達障害問題無し!?とらえ方で全てが

変わる」が開催され、熊谷市近隣の特別支援学校や中学校・高校の生徒たちによる吹奏楽や演舞、学校紹介の動画などが上映されました。

また、会場ホールの前では特別支援学校生徒が作った焼き菓子等の販売があり、フリースペースでは特別支援学校・特別支援学級作品展の絵画や工作作品の展示、別棟の会議室棟では障害者絵画展が展示され、それぞれ来場された方の目を楽しませていました。



## <賛助会員募集のコーナー>

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています



**株式会社 大塚商会**

東京本社 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4  
札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡

## 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、すべての人にスポーツを楽しんで欲しい。「競技」だけでなく、日常的に取り組めるスポーツ活動を応援したい。をスローガンに日々活動しています。障がいがあるなしにかかわらず、健康で元気に生活するために、スポーツの持つ様々な要素・スポーツの力が必要です。今後とも、埼玉県障害者協議会同様ご支援ご協力をお願いいたします。

## <賛助会員加入のお願い>

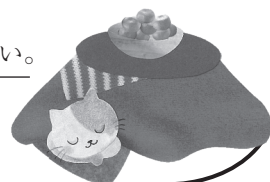
埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年8回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。

賛助会員の会費は、年一口2,000円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

<郵便振替> 【口座番号】 00130-9-673233

【口座名称】 特定非営利活動法人 とくいてい ひ えい り かっとうほうじん 埼玉県障害者協議会 さいたまけんしやうがひしやきやう ぎ かい



## 編集後記

「センターだより139号」をお読みいただきありがとうございました。新型コロナウイルスの感染症法上の取り扱いが変わり、控えられてきた行事や催し物も活気づいてきたこのごろですが、気づけば年の瀬になりました。この一年、皆様はいかががお過ごしになりましたか。

来年も、様々な行事や催し物が盛んに行われ、活気あふれる一年になるといいですね。〈石田〉